新しい温泉地の過ごし方をみんなで考えよう

NEWS LETTER No.27

チーム 新・湯治

「チーム新・湯治」ニュースレター　発行元：環境省温泉地保護利用推進室　発行日：令和7年1月27日

第18回「チーム新・湯治」セミナー［東京現地会場＋オンライン配信］

温泉旅館の女将が描く今後の温泉地の姿

環境省では、第18回「チーム新・湯治」セミナーを令和6年12月16日に開催しました。日本の温泉文化における「女将」とは、宿泊施設の管理者や経営者という役割にとどまらず、地域の顔として、その土地の文化や伝統を象徴する存在です。また、「おもてなし」の精神を実践し、お客様をもてなすだけでなく、その土地の伝統や歴史を伝える重要な役割も持っています。本セミナーでは、講師からの発表や意見交換を通じて、「女将」が描く今後の温泉地の姿やビジョンについて、チーム員の皆さんと一緒に学び考えました。

発表１　生きてりゃ！なんとかなる！～伝統を守りながらも温故知新を目指す～
湯本英里 氏（長野県 渋温泉 湯本旅館 女将）

- 湯本旅館は、長野県北部に位置する渋温泉の中心にある。創業は江戸時代初期の寛文年間（創業約400年）で、現在12代目が継承する世襲制旅館。初代湯本喜四郎の名前を冠する「命名湯（喜四郎の湯）」が自慢。
- 湯本氏は、美容師一家の長女として生まれ、美容師として勤務した後、湯本旅館の社長と知り合い結婚。2008年に乳がんの宣告を受け、翌年右胸の摘出手術を行った。こうした経緯から、「**ピンクリボンのお宿ネットワーク**」に入会し、現在は役員として活動をしている。
- 「ピンクリボンのお宿ネットワーク」は、乳がんを患い、手術を受けて回復の道を歩みながらも、術後の痕を気にして旅をあきらめてしまう方に、普段どおり周りの目を気にすることなく温泉に入ってもらう環境づくりを目指して活動を行っている。湯本氏も乳がんを経験した一人として、「ピンクリボン応援プラン」を作成し、**お客様と一緒に温泉に浸かり、病気や悩みについて語り合っている**。また、旅館の温泉カゴをはじめ、様々な場所をピンク色にし、男女関係なく利用いただけるピンクリボンの活動を広めている。
- コロナを契機に、経費削減策の一環として**旅館での夕食の提供をやめ、周辺の料亭や定食屋と連携**し、地産地消の取組を推進している。湯本氏自身が運転して、お客様の送迎を行っている。なお、朝食については、旅館で提供している。
- 湯本氏が描く今後の温泉地・旅館の姿は、**①泊食分離、②温故知新、③AIよりも人間**。旅館だけが頑張っていてもだめなので、**地域全体で一丸となって盛り上げていかなければいけない**。また、歴史のある旅館であっても**新しいことに取り組んでいく必要がある**。そして、AIによって日々便利な世の中となっているが、**心から温かみを感じることができるのは、人間対人間**だと考えている。
- 次女が12月から若女将に就任したため、**今後は次の世代への指導**に力を入れていきたい。また、**美容師資格を活かし、女性のお客様限定でシャンプーをしたい**と考えている。おそらくこのような旅館は他にないと思うので、シャンプーをしてもらえる旅館という形で浸透させていきたい。
- 今後も少しずつ変化、進化をしながら、皆様に元気を振りまいていきたい。

発表２　つなぐ
佐々木文 氏（島根県 有福温泉 よしだや旅館 若女将）

- 有福温泉は、1300年以上の歴史を持つ温泉で、全盛期には20軒以上の旅館が軒を連ねる山陰有数の温泉地だったが、旅館街の火災や水害などによって、3軒まで減少してしまう時期もあった。よしだや旅館は創業300年、客室数は7部屋で、7名のスタッフで運営している。
- 佐々木氏は、よしだや旅館の長女として生まれ、警察官として数年勤務した後、2018年から同館の若女将に就任した。これまでの取組としては、スタッフへのインタビューを行い、旅館としての理念や将来像について、共通認識を持つことができた。また、スタッフからの要望を吸い上げ、部屋のリニューアルや定期的な食事会を開催するようにした。さらに、SNSにも力を入れ、その結果、テレビや新聞、雑誌などの取材が来るようになり、旅館のPRにつなげることができた。その他、高付加価値事業として、客室の上質化（スイートルームの設置）も実施した。
- 最大の取組としては、**有福温泉再生プロジェクトチームの一員としての活動**である。この中で挙げられた「有福温泉地域の旅館の半数は、料理人等が確保できないために宿泊者数を制限しており、その結果、観光入込客数が年々減少している」という課題に対し、有福温泉のコンパクトな温泉街を一つのホテルに見立て、宿泊・飲食・温泉・仕事・休養・体験等に機能分離した施設を回遊しながら滞在する「**温泉地まるごとホテル（泊・食・楽分離）**」として再構築することを、町として進めている。さらに、滞在期間を延ばすため、**食・自然・癒しをテーマにした体験メニューを提供**するほか、子ども連れの滞在を可能にするため、**教育や自然保育などの教育体験を提供する旅館**も増えている。こうした取組によって、旅館数は10軒を超えるまでになった。今後は、**アクティビティの充実、老朽化した温泉浴場の魅力化、空き家の活用**などの部分にも力を入れていきたい。
- 地域の人にとっては、**温泉地としての誇り**を持てるように、お客様にとっては、**また来たい、もっといろいろな何かをしてみたい、住んでみたいと思ってもらえるようなまちづくり**を続けていきたいと考えている。また、旅館としては、働くスタッフ、訪れる方、全員の笑顔、「**福**」**があふれる宿**にしていきたい。そして、**両親から引き継いだ宿を大事に守りながら次の世代に継承していきたい**と考えている。

発表３　人生はミュージカル
～温泉地の未来はエンターテイメントと日本文化の融合～
柏木由香 氏（埼玉県 名栗温泉 大松閣 女将）

- 大松閣は、埼玉県飯能市にあり、飯能駅から車で30分程度の場所に位置する、創業110年の一軒宿である。柏木氏は、元ミュージカル女優兼シンガーソングライターで、この経歴を生かし、「**唄う女将**」としておもてなしをしている。また、女将、若女将の集い「虹会」の代表も務めている。
- 思い描くビジョンは、「**温泉地がエンターテイメントの力で地域の魅力と日本文化を楽しめる場所に生まれ変わりパワースポットになる事**」。前職時代に、被災地で元気になってもらいたい一心で多くの人々に歌を届け、沸いていく姿を見たときに、歌が人の心を動かす力を実感した。こうした経験をおもてなしの部分にも取り入れ、記念日のお客様に歌をプレゼントすると非常に喜んでいただける。また、トラブルがあった際も、お客様に歌を聞いていただくことで、怒りを忘れ盛り上がっていただくことができ、こうしたおもてなしも大切にしている。
- 柏木氏の住む地域は、過疎化が進んでいるが、偶然にも小学校のPTAの中に監督、脚本家、カメラマン、ミュージカル経験者、プロデューサーが揃ったことで、地域おこしの一環として、**ミュージカルの製作（名栗ミュージカル）に取り組んでいる。**
- 今後の取組のアイデアとしては、**①音楽でまちおこし**（ご当地ソングを作り、それをみんなで歌って踊る）、**②エンターテイメントミュージカルショー**（全国の女将、若女将たちでショーを繰り広げる）、**③日本の伝統文化アクティビティ**（地域の魅力を体験できるアクティビティにダンスと歌を取り入れる）、**④和食ライブキッチン**（仕込みから提供まで、こだわって作っている様々な姿をMC・音楽とともに、お届けする）、を考えている。
- **女将は、会うだけで幸せになれるパワースポットそのもの**だと感じている。そのため、女将が前に出ることが一番良いと考え、上述した女将の集い「**虹会**」を設立した。同会のビジョンは、「**旅館業を憧れの職業にする**」こと。これまでも宿フェスや女将サミットで歌やダンスを披露したほか、YouTubeでの動画配信やムービーの作成を行った。今後は、同会のメンバーだけでなく、全国の女将を巻き込み、**旅館業は大変なことがあるからこそ楽しいというものを描いた大きなミュージカルを作りたい**と考えている。女将が自らパフォーマンスをすることで、**旅館業界のイメージを明るく変えることができる**と確信している。

講師発表後の質疑応答、講師を交えた参加者との意見交換

泊食分離プランの料金設定について【発表１】

参加者：泊食分離プランでは、宿泊プランの中に夕食代も含まれていると思うが、どのように料金設定をしているのか。

- 湯本氏：私が決めている。料亭での夕食代については、通常の料金のままとし、割引等は行っていない。立地の関係もあり、これまでの3倍ほどの値段になってしまったが、お客様には納得してご利用いただいている。

地域との合意形成について【講師を交えた参加者との意見交換】

佐々木氏：夕食をなくしたり、おもてなしに歌を取り入れたり、お二人とも新しい取組を実施されているが、何か新しいことを始めるときに周囲の方とどのように合意形成をされたのか。

- 湯本氏：私のキャラクターもあったが、やると決めたことは信念を持って取組を進めた。
- 柏木氏：周りの意見を気にし過ぎてしまうと惑わされるので、もちろん歩み寄ることは大事にしているが、これだと思ったものに関しては、力強く進めていく。また、巻き込み力が大事で、自分がしっかりとパワーを出して、周囲を巻き込んでいく。

旅館業界の未来を担う若者へのメッセージ【講師を交えた参加者との意見交換】

- 柏木氏：旅館業は大変というイメージがあるかもしれないが、だからこそ最高である。大変だからこそ人としての器も大きくなり、人間的な魅力が増していく。ピンチや大変なことがあるたびに、それをどのように感動に変えていくかという転換をすることで楽しむことが出来る。
- 湯本氏：お客様は毎日違う。お客様からもパワーをいただいて、私からもパワーを送っている。旅館はお客様と話す場所だと考えており、お客様とお話をすることがこの仕事の楽しいところである。
- 佐々木氏：生まれ育った歴史ある旅館をなくしたくないと強く思い、スタートした。確かに旅館が大変だということは子供の頃から見ていてわかっていたので、継ぐこと・旅館業に就くのは悩みましたが、大変なだけ素晴らしい出会い、出来事がたくさんある。また、器という部分は本当に大きくなっていると感じる。様々なことが起こるため、その時々で自分の器が試されていると常に感じている。次の世代を担う若者がやりたいと思えるような魅力を持たせたいとも思っている。大変なだけではなく、それ以上に素晴らしいことがある。

「チーム　新・湯治」【環境省温泉地保護利用推進室】
令和６年度運営事業者：株式会社オーエムシー「チーム新・湯治」運営事務局（内野）
TEL：03-6810-1071　FAX：03-6810-1074
E-mail：shintoji@omc.co.jp